

☀️ 子どもの事故防止 🐞

子どもは、思いがけない行動で事故を起こします。しかし、多くの事故は大人のほんの少しの注意で防ぐことができます。このリーフレットを参考に、もう一度、子どもの目線で周りを見直してみましょう！

子どものこんな特徴が、事故に結びつきます

- 手に触れたものは何でも口に持っていく
- 自己中心的で怖いもの知らず
- 大人や動物のまねが大好き
- じっとしているのが苦手
- 好奇心旺盛
- 頭が大きいので重心が高く、バランスを失って転びやすい
- 視野が狭いので、空間を把握する力が足りない

こんな時は…どうしよう！

のどにつまった！

- 応急手当の原則は「口の中に指を突っ込んで取り出そうとしてはいけない」ということです。
 - 乳児では自分の片腕に児をうつ伏せに乗せて手の平で顎を支え、背中の中を平手で4〜5回叩きます。
 - 少し大きい子の場合は立膝で大腿がうつ伏せにした子どものみぞおちを圧迫するようにして、頭を少し下げた状態で背中を平手で4〜5回叩きます。
 - 異物が取れず、呼吸困難が強くなってきた時は、119番通報をし、さらに意識がない場合は心肺蘇生を行います。
- ※応急処置や心肺蘇生法については、母子健康手帳をご参照下さい。
 ※気管内異物(ピーナッツ、豆類の誤嚥)ではかえって呼吸停止の恐れがあるため、これらの応急手当を行うことは禁止されています。



頭を打った！

- 直後に大声で泣き、すぐに機嫌がよくなり、嘔吐やけいれんがなければひとまず安心です。食欲や顔色などに注意し、24〜48時間家庭で様子を見ましょう。当日の入浴は控えた方がよいでしょう。

やけどした！

- 痛みがなくなるまで、保温に留意しながら患部をまんべんなく冷やしましょう。
- 水ぶくれやただれがあったら皮膚科へ行きましょう(薬をつけずに冷やしなから)。
- 水ぶくれはやぶってはいけません。
- やけどの範囲が広いものはすぐに救急車を呼びましょう。

溺れた！

- 溺れて多少水を吐いたとしても、大声で泣き、意識がはっきりしているようならひとまず安心です。温かくしてしばらく様子を見ましょう。落ち着いたら念のために病院へ行きましょう。
- 無理に水を吐かせる必要はありません(嚥下性肺炎になる危険があるため)。背中を叩く程度でかまいません。お腹を押したりしてはいけません。
- 息がなければただちに人工呼吸をし、反応がなければ心臓マッサージを行って救急車を呼びましょう！

誤って飲んだ！

- 気づいた時点ですぐに吐き出させるのが原則です。舌の奥を指、スプーンなどで下の方に押しつけて吐かせます。
- ただし、以下の場合は吐かせずに病院に連れていきます。
意識障害がある けいれんを起こしている 揮発性の灯油・マニキュア除光液などを飲んだ 強酸、強アルカリ(漂白やトイレ用洗剤など)を飲んだ 血を吐いた とがったものを飲んだ
- かかりつけ医や中毒110番に連絡して、吐かせていいものかを聞きましょう。飲んだものによって応急処置の方法やすぐに病院に行くべきかが違います。

中毒110番 市民専用電話 072-727-2499 (365日24時間対応)

化学物質、医薬品、動植物の毒などによる中毒事故が起きて、どう対処したらよいか迷った時にご相談下さい。

*少量なら口に入れてもあまり心配ないもの・・・固形の化粧品・乳液・ハンドクリーム・口紅・香水・接着剤・ボールペンやフェルトペンのインク・クレヨン・保冷剤の中身

たばこに注意！(最も多い誤飲事故です)

食べた量が2cm以上や灰皿の水を飲んだときは、吐かせてすぐ病院へ！
何も飲ませてはいけません！

- たばこ誤飲事故専用電話 072-726-9922 (無料)
(24時間対応、年中無休 テープによる情報提供)



★どんな事故であっても、2〜3日は様子を観察しましょう。

こんな症状があったらすぐに受診しましょう！

- 機嫌が悪い
- 顔色が悪い
- ぐったりしている
- いつまでたっても泣き止まない
- けいれんがある
- うとうと寝る
- 息の仕方がおかしい
- 吐く
- 熱が続く
- 耳や鼻から出血している

★救急車を呼ぶときは・・・

落ち着いて(「いいから来て!!」ではダメ)、子どもがいつからどうなったのかをしっかりと伝えましょう。

- ①救急であることを伝える
- ②住所を伝える
- ③症状を伝える(いつからどうなったのか)
- ④年齢を伝える
- ⑤名前と連絡先を伝える

救急車が到着するまでに

- ①母子手帳
 - ②おむつ
 - ③保険証
 - ④乳幼児医療証
 - ⑤飲んでいる薬
- を用意しましょう。



★携帯電話を使用すると、西宮市内から119番通報した場合でも場所によっては他市の消防署につながる場合があります。また、電波が悪いと場所が特定しにくいことがあります。

★「こどもの救急」おかあさんのための救急&予防サイト(日本小児科学会)

<http://kodomo-qa.jp/>